

# 我が社の ストラテジー



## 不動産仲介トップの常口アトム

北海道で不動産仲介トッ  
プシェアの常口アトム

(札幌市)が物件の管理手数料を主軸にした収益モデルへの転換に取り組んでいます。北海道ガスが始めた賃貸物件の管理を請け負い、既存物件へのフォロー体制も手厚くする。物件仲介は長期の安定収入が見込みづらく、管理に軸足を置いて生き残りを図る。

厳しい冬の気候に耐える賃貸物件が求められる北海道では、特殊な物件事情に精通した地元企業が強い。常口アトムが仲介した2020年度の賃貸仲介件数は約3万件にのぼり、道内のシェアは4割弱でトップ。全国でも9位の多さだ。だが契約時に一度しか入らない仲介手数料に頼ることを発表した。常口アトムは北ガスが保有する物



常口アトムは賃貸仲介件数、物件管理戸数のいずれも北海道でトップだ

# 管理手数料で年商100億円へ

直撃しかねない。仲介手数料は売り上げの4割を占めており、管理手数料と並ぶ事業の二本柱だ。そこで常口アトムは管理を請け負う不動産物件を増やし、毎月受け取る管理手数料の比率の上昇を目指す。現状でも北海道でトップの約5万7千戸の管理戸数を抱えるが、三戸篤人社長は「早く6万戸に」と意気込む。年10月に設置した「ソリューション営業部」は札幌市白石区や厚別区を中心約40人を配置する。定期的に管理物件のオーナーを訪れて相談を聞く、担当者が問題の解決に向けて提案する。

（三戸社長）

北海道ガスは今後約20年間で3千戸の賃貸物件を保有する方針で、常口アトムもその分だけ管理戸数が増える見通しだ。「今後も北ガスのように賃貸事業に参入する企業は増えるとみており、今回の連携はいい事例になる」

を請け負う。

## 北ガスと提携、相続相談も



常口アトムの三戸篤人社長は北海道銀行の出身だ

件の相続にまつわる相談だ。税金の負担などを考慮し、不動産オーナーは子供に相続する前に物件を売ることがある。その際にソリューション営業部が物件の買い手を探して売買契約を成立させたうえで、新しいオーナーからも物件管理を請け負えば同社の管理戸数維持にもつながる。

三戸社長を含め、直近

（井田正利）

に委託する際に支払う。契約内容にもよるが、物件の家賃に対して一定の割合をかけた金額を、毎月管理会社に支払う。仲介手数料は1回の契約で1度しか受け取れない。このため売上高を維持するには常に新規の不動産契約を獲得し続ける必要がある。このため売上高を維持するには常に新規の不動産契約を獲得し続けなければいけない。一方で管理手数料は毎月収入が入ってくるため、不動産会社は売上高の見通しを立てやすくなる。

▼仲介手数料と管理手数料  
仲介手数料は不動産の売買や賃貸の契約を結ぶ際、契約を仲介した不動産会社が物件の案内や重要事項の説明などの対価として受け取る。賃貸であれば家賃の1ヶ月分が手数料の上限だ。

管理手数料は賃貸物件のオーナーが入居者の募集や賃料の収集、共用部の管理などを管理会社

3代の社長はメインバンクの北海道銀行出身だ。約10年前に相次いだ社員の不祥事を受けて道銀が人材を支援した。社員への研修を強化したほか、営業社員の給与を歩合から固定に転換するなど、コンプライアンス体制を立て直した。

同社のこれまでの年間売上高のピークは100億円。仲介契約件数のみを追うのではなく、収益モデルを強くした上で売上高の拡大を狙う。三戸社長は「直近の売上高は90億円程度。管理手数料を増やし、長続きする100億円を目指したい」と展望を語る。